

「特定分野に特異な才能のある児童生徒に対する学校における指導・支援の在り方等に関する有識者会議」
審議まとめ（素案）に対する意見等について

全国高等学校長協会前会長 杉本悦郎（東京都立町田高等学校）

1 「特異な才能のある児童生徒を取り巻く状況 2（2）①」に対する意見

30 「(略) こうした支援の取組が講じられるかどうかは、それぞれの教育委員会や学校の理解や体制に左右される側面があることに留意が必要である。」

◆ 支援の取組が講じられていない以前に、特異な才能のある児童生徒が見出されることなく、埋もれてしまう可能性が高いのではないかという危惧を覚える。

50 「(略) 学校において児童生徒に直接関わる教師の理解が一層進んでいくことが期待される。」

◆ 理解が進んでいない状況があるならば、直接関わる教師の理解の進展は期待ではなく、急務と捉える。また、第7回 論点整理では、特異な才能を有する児童生徒が学習活動及び学校生活に困難が生じている場合の対応策を可能とするために必要な環境や体制として、8項目が示されている。学校現場の教員が、才能や特性を適切に見出すことができなければ、その他方策を講じようとしても、指導・支援を必要とする児童生徒を取りこぼしてしまえば、意味がない。特性等を把握する際のサポート（4（2）③）に止まらず、広く才能や特性等を見出す方策について踏み込むべきである。

2 「取組を進める上での考え方 3（3）①」に対する意見

20 「(略) 入学者選抜を通じて在籍関係が決まるため、学力等でみた場合に学習集団がある程度の水準でまとまっている状況がある。また、高等学校には、(略) 義務教育に比べて選択肢が多い。」

◆ 2（1）② 40に「読み書きなどの学習における困難を抱えるなど、様々な障害による学習上又は生活上の困難を併せ有する事例が報告されており、(略)」とあり、このような特異な才能と学習困難を併せ有する児童生徒の場合、高等学校における入学者選抜を通過できていない可能性が十分ある。このような児童生徒に対する支援などにも考慮が必要である。また、特異な才能のある生徒が入学した際には、義務教育との学校間で適切に引継ぎを行うとともに、認知や発達の特性に起因する学習上の困難への様々な支援などについても留意が必要である。

3 「取組を進める上での考え方 3（3）②」に対する賛意と要望

20 「(略) 教師だけで全ての対応を行うことを想定するのではなく、教師以外が参画することや、学校外の学びの場も含めて検討することが重要である。」

40 「特に学校外の学びの場の支援や教育委員会や在籍校との連携については、予算や人員といった実現のためのリソースが不可欠である。(略)」

◆ 外部機関・人材の活用並びにリソースの保障に基づく施策を強く要望する。

4 「多様な学習の場の充実等 4（2）②」に対する現状と要望

30 「養護・福祉・心理などの側面から児童生徒に対する支援を行う観点から、養護教諭やスクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの活用も重要である。(略)」

◆ 4（1）にも「スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなどと必要があれば子供がすぐに相談できる体制が校内で整備されている。」ことが、有識者会議が想定するあるべき姿と記載されているが、現状は別表（学校保健統計調査、児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査）のとおりであり、特異な才能の有無にかかわらず、すべての児童生徒を支援できるよう早急な体制の整備が必要である。

50 「(略) 文部科学省における支援策や既存の制度については、引き続き推進していくことが重要である。(略)」

◆ 文部科学省における高等学校等への支援策や都道府県教育委員会による指定校事業等は、特定の分野・領域に焦点を当てた学校の取組の支援において、成果をあげている。しかし、指定された高等学校等に在籍しなければ、その支援は享受できない。一方、理数系教科に秀でた生徒の知的好奇心・探究心に応じた学習機会を提供する国際科学技術コンテスト支援事業や都道府県教育委員会のチャレンジ支援プログラム等は、希望する生徒の優れた才能を伸長するための支援となっている。

◆ 大学や民間事業者、地域の施設、非営利法人等における特異な才能のある児童生徒を含めた児童生徒の興味・関心に応じたこれまでの取組等をさらに拡充していただくとともに、各都道府県内にある大学等の高等教育機関における特異な才能のある児童生徒のための先進的な支援や取組についての情報を共有し、全国的に発展・拡大させていただきたい。また、高等学校等では、在籍以外の場における体験的な活動等の成果をより幅広く評価できるよう、学校外における学修の単位認定や大学、高等専修学校、専修学校等における学修の単位認定などを活用すべきである。

(別表)

「相談員・スクールカウンセラーの配置状況」学校保健統計調査（令和2年度）

区分	小学校				中学校				高等学校			
	有			無	有			無	有			無
	定期配置		不定期配置		定期配置		不定期配置		定期配置		不定期配置	
	週4時間以上	週4時間未満			週4時間以上	週4時間未満			週4時間以上	週4時間未満		
全国	22.5	34.4	32.3	10.8	66.9	17.3	12.2	3.6	42.1	30.9	20.7	6.3
東京	95.8	3.4	-	0.8	91.2	-	-	8.8	84.3	8.3	-	7.4
福井	19.2	67.7	13.1	-	100.0	-	-	-	8.6	55.3	30.4	5.7
高知	40.4	53.5	6.0	-	62.8	23.2	14.1	-	90.9	6.9	2.2	-

※e-Stat 政府統計の総合窓口「統計で見る日本」より抜粋

「スクールソーシャルワーカーの活動日数の状況（公立）」児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査（令和2年度）

	中学校区		小学校		中学校		高等学校		計	
	中学校区数 (校区)	構成比 (%)	小学校 学校数 (校)	構成比 (%)	中学校 学校数 (校)	構成比 (%)	高等学校 学校数 (校)	構成比 (%)	学校数 (校)	構成比 (%)
①常駐	94	1.0	85	0.4	73	0.8	10	0.2	168	0.5
②年間168日以上(常駐を除く)	585	6.3	464	2.4	269	2.9	3	0.1	736	2.3
③年間167日～84日	1,052	11.3	688	3.6	566	6.0	43	1.1	1,297	4.0
④年間83日～42日	1,468	15.7	1,655	8.7	1,168	12.5	182	4.5	3,005	9.2
⑤年間41日～20日	1,673	17.9	2,825	14.8	1,601	17.1	278	6.8	4,704	14.4
⑥年間19日～10日	905	9.7	2,679	14.0	1,240	13.2	207	5.1	4,126	12.7
⑦年間9日～1日	1,743	18.6	5,129	26.8	2,103	22.5	832	20.4	8,064	24.8
⑧年間0日(配置実績なし)	1,827	19.5	5,578	29.2	2,346	25.0	2,532	62.0	10,456	32.1
計	9,347	100.0	19,103	100.0	9,366	100.0	4,087	100.0	32,556	100.0

※e-Stat 政府統計の総合窓口「統計で見る日本」より作成

《参考》

- ◇ 文部科学省における高等学校等への支援
 - ・【SSH】将来のイノベーションの創出を担う科学技術人材の育成
 - ・【SGH】将来国際的に活躍できるグローバル・リーダーの育成
 - ・【WWL】SDGsの達成を牽引するイノベティブなグローバル人材の育成
 - ・【SPH】社会の第一線で活躍できる専門的職業人の育成 など
- ◇ 都道府県教育委員会による指定校事業（東京都の例）
 - ・【理数研究校】理数に優れた資質・能力をもつ生徒の発掘とその才能の伸張
 - ・【知的探究イノベーター推進校】変化の激しい社会で活躍する有為なリーダーの育成
 - ・【理数教育重点校】理数に係る高度な探究活動及び教科等横断的な学習の充実
 - ・【Global Education Network 20】東京都におけるグローバル人材育成のモデルとなる指定校
- ◇ 官民協働海外留学支援制度による意欲ある学生の海外チャレンジ支援
 - ・【トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム】将来世界で活躍できるグローバル人材の育成
- ◇ 国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）による次世代人材育成事業等
 - ・教科系コンテスト【日本数学オリンピック、化学グランプリ、日本生物学オリンピック、全国物理コンテスト「物理チャレンジ」、日本情報オリンピック、日本地学オリンピック、科学地理オリンピック日本選手権】
 - ・課題系コンテスト【日本学生科学賞、高校生科学技術チャレンジ】
 - ・【科学の甲子園】全国の科学好きな高校生が集い、競い合い、活躍できる場の構築
- ◇ 都道府県教育委員会による生徒を対象としたチャレンジ支援プログラム（東京都の例）
 - ・【次世代リーダー育成道場】英語圏の国での約1年間の留学にチャレンジすることを支援